

令和6年度

学校自己評価報告書

令和7年 3月31日

学校法人 東洋学園

専門学校 東洋公衆衛生学院

自己点検評価委員会

学校自己点検・評価とは、学校が学校運営状況について自ら評価し、その結果に基づき改善することである。本校では、学則第4条及び自己点検・評価規程により実施し、学校及び学科の方針、運営計画にもとづいた教育活動や学校運営に対し、総合的に評価した。

根拠として、授業評価資料、会議の議事録、日報、学生指導の報告書、復命書等がある。

評価項目を自己点検・評価規程第2条の10項目とし、また、評価段階を4段階

(4:大変良い 3:良い 2:あまり良くない 1:良くない)とした。

I 教育理念・教育目標

	評価項目	評価
1	教育理念・教育目標が設定されている	4
2	教育理念・教育目標は明文化している	4
3	職業教育の特色を持っている	4
4	教育理念・教育目標が周知徹底されている	4

【状況】

・「医の倫理をわきまえ、医療人としての学術を基本に、情操豊かな人間性を培う」という教育理念のもと

(1)自己の成長のために学習を継続するとともに、職業人としての問題の追及と解決に当たる態度を身につける。

(2)責任感と実務能力を備え、社会の信頼に十分にこたえられる知識と技能・態度を身につける。

(3)人とのかかわりを通して自己を見つめ、豊かな人間性を培い、幅広い教養を身につける。

という3つの教育目標を設定し、明文化している。これらの教育理念・教育目標は入学前教育及び4月の新入生ガイダンスで説明し、さらに、学生便覧、学校案内書・Webサイトおよび学内掲示板を通じて周知している。

【課題・改善策】

・学生便覧、学校案内書・Webサイトおよび学内掲示板で周知しているが、まだ、十分とはいえないため、教職員自ら実践することを心がけ、改善に努めていく。

Ⅱ 学校運営

	評価項目	評価
5	目的に沿った運営方針が策定されている	3
6	運営方針に沿った事業計画が策定されている	4
7	運営組織や意思決定機能は規則等において明文化され、有効に機能している	4
8	人事や給与に関する規程等は整備されている	4
9	情報のシステム化による業務の効率化が図られている	4

【状況】

- ・年間スケジュールに沿って、順調に事業計画を進めることができた。
- ・法人の意思決定事項は寄附行為で定めており、主要な項目は理事会・評議員会で決定している。通常の業務運営についてはビジネスミーティングにおいて、理事長・学院長の下、各部署の役職者にて、意思決定と組織運営を行っている。
- ・就業規則、給与等の諸規程については整備され、状況に応じ改正している。
- ・コンプライアンスの意識の向上を目的に、コンプライアンス違反の事例やケーススタディをテーマとしたメールマガジンを月2回、教職員に配信している。
- ・LAN サーバー及び Google Workspace for Education（以下 Google Workspace と略す）を導入しており、教職員間で情報を共有し、業務の効率化を図っている。
- ・Wifi 環境の更新を行った。

【課題・改善策】

- ・学則に定めた目的を達成するよう学校運営にあたっているが、具体的に学校および学科運営方針を策定する。
- ・教職員会議などで、学校運営方針の意識付けを積極的に行う。
- ・Web サイトによる情報公開を推進する。
- ・学校運営について、安定的な定員確保、学生指導及び施設設備の整備を進める。
- ・Google Workspace を活用することで、教職員と学生及び教職員間の情報共有が円滑に行われているが、引き続き各教職員及び学生のスキル向上に努める。

Ⅲ 教育活動

	評価項目	評価
10	カリキュラムは体系的かつ適正に編成されている	4
11	人材ニーズ等に合わせ、カリキュラムの見直しが行われている	4
12	成績評価・単位認定の基準は明確に設けられている	4
13	授業計画が明文化され、それにもとづく教育を実施している	4
14	授業評価の実施、評価体制が整っている	4
15	教員の資質、指導能力向上に対する方策を採っている	4
16	資格取得の指導体制はある	4

【状況】

- ・カリキュラム編成については、指定規則に則り教育内容の充実に努めており、講義、学内実習、並びに臨地・臨床実習を重視し、教育内容の充実を図っている。
- ・学則、履修方法及び進級・卒業認定細則により成績評価・単位認定の基準を明確化し、進級・卒業認定は学院長、学科長で構成された進級査定委員会、卒業認定委員会で決定する。
- ・シラバスを一部改訂し、内容を整備した。また、Web サイトでもデジタルブック化して公開している。
- ・授業計画は明文化されており、1 年次では基礎学力の習得と医療人としての人格形成を行い、2 年次では専門科目の習得と学内実習・臨床実習Ⅰ（診療放射線技術学科）では、医療人としての使命感を高める。また、3 年次における臨地実習（臨床検査技術学科）・臨床実習Ⅱ（診療放射線技術学科）では、これまで学んだことの実践を行い、職業意識の向上につなげる教育を実施している。
- ・GPA 制度を導入して学修成果の指標として役立たせている。
- ・学生による授業評価を実施しており、授業内容の改善に努めている。また、授業評価の実施方法については、Google Workspace Forms による、配信型の授業評価アンケートを行い、積極的に回答ができるような体制をとっている。

- ・ Google Workspace Forms で授業評価アンケートを実施しているため、各教員がリアルタイムに評価内容を確認することができる。
- ・ Google Workspace Forms で専任教員および非常勤講師を対象とした国家試験アンケートを実施している。
- ・ 令和4年度からの臨床検査技術学科の新カリキュラムで新設された「人間関係論」および「福祉学総論」では、姉妹校である宮崎医療管理専門学校（以下宮崎校）の専任教員による専門的なオンライン授業を行っている。また、本学の専任教員も定期的に宮崎校に向けて、専門的なオンライン授業を行っている。
- ・ 教員が学会や研修会に参加することを奨励している。ここで知り得た、最新の研究成果・時事情報は、教員が授業で積極的に取り上げ、それぞれ創意工夫をしている。
- ・ 国家試験不合格者への支援として、聴講生制度を設けて合格を目指し指導を実施している。
- ・ 教職員の資質向上のため、各学科で公開授業（実習）を実施している。
- ・ 今年度より、授業の配布資料や実習書の印刷は、事務部の所掌としている。
- ・ Google Workspace 内で、本学教職員並びに学生・卒業生のみが閲覧できる「学生ポータルサイト」において、学生の自主的な学習を支援する時間と、教室を超える学習空間「ラーニングコモンズ」を現在構築中である。

【課題・改善策】

- ・ 専任教員の各専門領域、各教科関連の研修について、学科レベル、個人レベルでの取組をさらに強化していく。また、学内での FD 研修体制を確立していく。
- ・ 本学と宮崎校間で、今後も定期的にオンライン授業を行っていき、学生に対しては分野の最新情報を共有していけるよう努めていきたい。
- ・ Google Workspace Forms での授業評価アンケートの未回答の学生に対しては、断続的に再配信を行い、未回答や回答漏れをなくしていくよう心がけていきたい。
- ・ 授業担当者へ授業評価アンケートの結果周知を行い、翌年度の授業改善に活用できるような教育支援に取り組んでいく。

- ・ Google Workspace Forms での専任教員および非常勤講師からの、国家試験アンケートの集計結果を参考に、国家試験の合格に向けて、学生の能力や習熟度を個々に把握しながら、さらにきめ細かな指導を強化していく。
- ・ 教職員の一層の資質向上を図るためには、講義・実習の効果や実習書の充実度、見直した実習方法の効果などを定期的に評価し、教育の質向上に向けた改善点を検討する。
- ・ 事務で授業の配布資料や実習書の印刷を所掌することにより、教員の業務負担を減らし、授業準備の時間を確保することによって、間接的に指導力の向上につながる。
- ・ 「ラーニングコモンズ」の構築に向け、教員全員の協力を得る体制を整備し、定例会議等で活用方法を検討する。

IV 学修成果

	評価項目	評価
17	就職率の向上が図られているか	3
18	資格取得率の向上が図られているか	4
19	退学率の低減が図られているか	3
20	卒業生の社会的な活動状況や評価を把握しているか	3

【状況】

- ・クラス担任及び就職支援担当者が、履歴書等の書き方及び面接の個別指導を行っている。
- ・学生への面接指導を教員による専門職としての目線から、就職支援担当者による人事採用者としての目線からそれぞれ実施している。
- ・今年度は就職・学生支援室の担当職員を増員し、丁寧な就職指導の実施や資料の充実を図っている。
- ・新着求人票を迅速に学生に公開するために「学生ポータルサイト」で、受理した求人票を随時更新し、各学生がパソコンまたはスマートホンから、常に関連できる体制にしている。
- ・学力不足の学生に学修指導、補講など行うことにより退学の低減に努めている。
- ・放射線取扱主任者試験を受験する学生に対して、合格対策補習講座を実施している。

【課題・改善策】

- ・履歴書等の書き方及び面接指導を実施しているが、さらなる充実が求められるため、学校全体の取り組みとして強化し、内定率を向上させていく。
- ・退学防止に向けて入学時の研修内容の改善や、医療機関との提携によるメンタルヘルスケアの実施など引き続き、学生生活の支援を強化する。
- ・入学許可と同時に Google Workspace の初期設定を促し、新入生の入学前の学習に対する不安を軽減する環境を整備する。
- ・入学者全員が技師免許を取得できるように、学生の学修状況を共有し、全教職員で退学防止策を強化する。

V 学生支援

	評価項目	評価
21	進路指導に関する体制が整備され、機能しているか	3
22	学生相談に関する体制が整備され、機能しているか	3
23	学生の経済的側面を支援する体制が整備され、機能しているか	4
24	保護者と適切に連携しているか	4
25	卒業生への支援体制はあるか	3

【状況】

- ・学生支援室のスペースを拡大し、求人・報告書閲覧のほか、自習や昼食利用で利用できるようにしている。また、就職活動のための参考資料の配布、急速充電器の貸出、ミニストップポケットを導入し、幅広い学生サービスを提供する。
- ・奨学金手続き、学納金の延納・分納、高等教育の無償化新制度の授業料減免や給付型奨学金に対応し、家庭環境に合わせた支援を実施している。また、一人暮らしの学生支援として、一人あたり2～3キロのお米を希望者に無償配布した。
- ・保護者に対して、成績通知時に学校への要望を返信できるよう依頼し、学生の学修状況に応じた連絡・面談を適宜実施し、保護者の理解と協力が得られるよう努めている。
- ・近況報告を兼ねて卒業生が来校することがあり、その機会に働いている環境や医療業界の最新情報を得ることができており、その情報は在校生へ就職支援をする上で重要な資料となっている。
- ・卒業生には、Google Workspace の機能を卒業後も継続して利用できるようにしている。
また、「学生ポータルサイト」は学内で発行した Google Workspace のアカウントのみ閲覧可能だが、付与されていない卒業生から閲覧依頼があった場合に、随時アカウントを発行している。

【課題・改善策】

- ・求人票の適切な管理および情報提供により、学生の自主的な取り組みが見られるが、学生支援室の積極的な利用を促進していく。
- ・実習先の医療機関以外の施設訪問を実施し、求人情報の収集や進路開拓を強化していく。
- ・学生便覧の配布や入学時のガイダンスの実施などにおいて、学生相談の利用方法を周知する。
- ・学納金納付が困難な学生に対する奨学金制度の充実などに努めていく。
- ・Google Workspace を日頃から教職員と学生とのコミュニケーションツールとして利用することを推進し、さらに、卒業後の就職・転職活動や同窓会情報の提供等、引き続きこれらのツールを利用していく体制を整えていく。

VI 教育環境

	評価項目	評価
26	施設・設備は、教育上、充分に対応できるよう整備されているか	4
27	実習やインターンシップについて、十分な教育体制が整っているか	4
28	防災に対する体制は整備されているか	4

【状況】

- ・増築校舎建設に向けての工事が始まった。
- ・実習やインターンシップについての教育体制は整っており教育に活かされている。
- ・消防設備点検で指摘を受けた、非常灯などを迅速に改修した。
- ・緊急地震速報の装置を更新し、定期的にテスト放送を実施し、実効性を確保している。
- ・学生用の災害時備蓄品として保存食・防災セットを整備し、定期的に点検している。
- ・災害時備蓄品としてカセットコンロ、心電計、血圧計、聴診器を整備し、実習でも使用しながら、定期的に点検している。
- ・教職員会議で、災害時の安否確認を想定した緊急連絡網を再度見直し、学生に対しては、研修旅行や体育祭などで実際に安否確認連絡のテストを実施した。
- ・廊下・階段の LED 照明への交換工事を行い、学内の安全性と省エネの考慮をした。

【課題・改善策】

- ・今後増築校舎による教育環境の向上が見込まれる。特に、設備の充実（最新の ICT 環境、実習室の充実、バリアフリー対応など）、学習環境の向上（快適な教室、図書室・自習室の拡充など）、安全性の向上（耐震性、防災設備の強化など）が見込まれる。
- ・最新の教育機器の導入を進め、関係各所の助言をもとに、より充実した学習環境を整備していく。
- ・教職員全体で環境美化、清掃活動に積極的に取り組めるよう具体的な計画を策定する。
- ・防災計画書に基づき火災・地震災害を想定した訓練を定期的の実施する。

VII 学生募集と受け入れ

	評価項目	評価
29	学生募集活動は、適正に行われているか	3
30	教育成果の情報提供は、適正に行われているか	3
31	入学者状況、入学者の推移について、入学者選抜方法の妥当性及び教育効果の視点から分析し検証しているか	4
32	学納金は、妥当なものとなっているか	4

【状況】

- ・募集活動や情報提供、入試選考等、適正に実施している。
- ・高校または会場の進路ガイダンスでの本校志望者に対しては、体験入学等への来校を促進し、改めて本校の教育内容等の理解を深めてもらえるように努めている。Web 動画配信などで本校の最新情報提供を行っている。
- ・入学手続き者に対し、Google Workspace の初期設定を事前に行った。それをふまえて、1 2 月中旬から 3 月末まで入学前教育を対面及びオンラインで複数回実施している。入学前教育終了後は、Google Workspace Classroom より課題の配布、Google Workspace Forms による課題提出などを行っている。
- ・両学科とも入学前教育をサポートするための、担当者を配置し、問題作成や添削のほか、リモートや電話による相談などにも対応できる体制を整えている。また、教員と新入生との間で Gmail を利用して気軽に質問や相談できる環境を整え、不安要素を取り除いたうえで、入学後もスムーズに学生生活がスタートできるように努めている。
- ・入試については、Web 出願機能を導入している。
- ・入試に関しては、実施要領を作成し、特に面接の設問等はそのマニュアルに従い厳正なる選考を行っている。
- ・学納金等は、適正かつ妥当な金額に設定している。
- ・学納金及び奨学金制度等については、募集要項及び Web サイト等を通じ、情報提供を行っている。また、今年度から実施している高等教育の無償化新制度における授業料減免および給付型奨学金については、該当者に対して丁寧に対応している。

【課題・改善策】

- ・少子化対策や競合分野における大学の学部等の新增設に対応すべく、広報担当者を中心として、教職員と連携してより積極的な学生募集活動を展開する。特に SNS を活用した情報発信を強化し、受験生への認知度向上と関心を高める取り組みに努めていく。
- ・入学希望者の対応について広報担当者以外の教職員も即時対応できるよう情報の共有の強化や研修等を実施する。
- ・出張授業や体験講座を積極的に実施し、高校生が早い段階で本校を志望できる環境をつくる。
- ・新たな進路選択を考えている社会人・大学生向けに夜間開催の説明会を検討している。

VIII 財務

	評価項目	評価
33	中長期的に学校の財務基盤は安定していると言えるか	4
34	予算、収支計画は、有効かつ妥当なものとなっているか	4
35	財務について、会計監査が適正に行われているか	4
36	財務情報公開の体制整備はできているか	4

【状況】

- ・教職員一同の努力によって財務基盤は安定している。
- ・将来に向けた設備投資のため、中長期による予算、収支計画を練っており、必要経費を確保しながら学校運営にあたっている。
- ・会計監査は適正に実施されており、外部の税理士による確認も行い、財務状況を適切に管理している。
- ・本校 Web サイトで財務情報を適宜公開し、情報の透明性を維持している。

【課題・改善策】

- ・将来に向けた設備投資に関して、より具体的な計画書を作成し、財務戦略の明確化を図る。
- ・施設の老朽化を視野に入れ、優先度の高い投資項目を明確にする。
- ・学校運営の無駄な支出を削減し、財務の健全化を継続する。

IX 法令等の遵守

	評価項目	評価
37	法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
38	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
39	自己点検・評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
40	自己点検・評価の結果を公表しているか	4

【状況】

- ・ 普段より法令及び設置基準等の遵守に努め、適正に学校運営にあたっている。
- ・ 個人情報について、特に USB 等の記録媒体の取扱い管理を徹底し、適切な情報管理を実施する。
- ・ 自己点検・評価について定期的に実施し、問題点の改善に努めた。
- ・ 本校 Web サイトで自己点検・評価の結果を公表し、情報の透明性を確保している。

【課題・改善策】

- ・ 個人情報を含む、諸表簿の整理、処分を含めたルール管理体制を維持・強化する。
- ・ 自己点検・評価を具体的な改善につなげるため、教職員会議などを活用し、校務分掌や教育活動の遂行状況を把握・共有する機会を増やす。

X 社会貢献

	評価項目	評価
41	学校の教育資源を有効活用した社会貢献を行っているか	4
42	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
43	地域や関係団体との連携や交流を通して、地域活動に参加しているか	3

【状況】

- ・「国立科学博物館大学パートナーシップ」に加入しており、多くの学生が科学リテラシーやサイエンスコミュニケーション能力向上の研修を行った。
- ・「国立科学博物館大学パートナーシップ」を多くの学生に利用してもらうために、学内掲示板や学生ポータルサイトで最新情報を発信した。
- ・夏休み親子科学教室（小学4～6年生対象）を開催し、多くの児童・保護者が参加した。
- ・教育資源を広く社会に対して活用していく体制を整備している。
- ・校外で実施されているボランティア活動情報の掲示など支援の取り組みを行っている。
- ・臨床検査技師の認定資格試験、講習会の会場として施設を提供している。
- ・JAAS（日本科学振興協会）に法人会員として参加している。
- ・渋谷区こども科学センター「ハチラボ」において、ワークショップを小学生および中学生対象に開催し、多くの児童・生徒・保護者に参加していただいた。
- ・JICA（国際協力機構）研修会場として、アジア・アフリカの開発途上国から臨床検査技師ら6名が来日し、本学の微生物学実習室において、微生物学的検査技術実習及び教育訓練教材作成を5日間行った。
- ・SDGs（国連が提唱する持続可能な開発目標）に賛同し、本学では、①安全衛生 ②ワークライフバランス ③専門知識やスキルを活用したボランティア ④地域活性化・産業振興の4つの持続可能な社会の実現のに向けた、積極的な取り組みを行っている。

【課題・改善策】

- ・地域交流の体制を整備していく。
- ・地域の中学生を対象とした臨床検査技師、診療放射線技師の仕事について、学校公開日を設定することや、特別講座や交流活動などの開催も検討していく。
- ・学校行事として、清掃活動等の地域貢献に係る事項を検討していく。
- ・地域の方々・学生・生徒・児童向けの「国立科学博物館・巡回展」を企画・開催したい。
- ・ボランティアの依頼があれば積極的に参加するとともに、社会貢献の在り方について検討し、実施につなげていく。
- ・JAAS の活動に学生が参加するように促していく。
- ・今後も可能な限り柔軟に学校施設を、関係団体に提供できるよう検討する。